

令和 6 年度 県立水戸南高等学校（定時制・昼間制）自己評価表

目指す学校像	「生徒一人一人のニーズ・スタイルを尊重し、学校本来の大切さを日々感じる高校」 単位制で作る自分の時間割、生活スタイルで選べる 3 つの課程、手厚い指導体制を生かしたセルフプロデュースの学習を実現する。 J R 水戸駅から徒歩圏内の利便性と、緑に囲まれた閑静な環境を生かして、持続可能な心静かな学びを実現する。	
三つの方針	三つの方針	
「三つの方針」(スクール・ポリシー)	「育成を目指す資質・能力に関する方針」 (グラデュエーション・ポリシー)	具体的目標 (長期的目標) 【水戸南高校の学びの場で、「これから」の自分に向き合う資質・能力を身に付けて、困難に負けない自分を創る】 ○いつでも「これから」(未来)を意識し、「得たこと」よりも「やり続けること」に価値を感じながら、学び続けていくことの楽しさを資質として習得する。 ○世の中の成り立ちを知り、面白いと感じる分野と出会い、自分にプラスをもたらす人に出会い、自分の秀でた部分に出会い、高校時代に第 1 歩を踏み出す。 ○困難を乗り越えてきた経験も自信に変え、何度でも立ち上がれる人になる。「今までどおり」が通用しない未来において立ち上がる力を磨く。この場所で過ごす「高校生活の日々」の大切さが将来の自分の糧となる。 ○「自分にはできない」とあきらめず、「今はまだ、できないだけ」ととらえ、一人一人が目標を実現可能と信じ、自分の「学びに対する好奇心」に火を点ける。 ○学びの中で「自分にはどのような力があるか」と自己探究し、「将来何になることができるか」、「なりたい自分になる」など、自分の強みと本来の個性を表現できる資質を養う。 ○個性と多様性を大切にする自由さの中で、自立と自律の能力を磨く。自分の目標と今の自分がどう違っているかを見極めて、自分で修正できる力を身に付ける。
	「教育課程の編成及び実施に関する方針」 (カリキュラム・ポリシー)	(中期的目標) 【単位制の特色を最大に活かした水戸南高校の学びで、自分の意思と選択で学べる時間割を提供し、一人一人のニーズに応える】 ○「なりたい自分になるための学びの場づくり」のため、単位制の特色を活かす。学びの積み重ねによって 3 年間で卒業でき、多様な教科科目、個別対応も含んだ発展的学習を可能にする。 ○全体的な効率よりも、一人一人の興味・関心・進路希望による科目選択が優先される水戸南カリキュラム。自分のペースの学びを実現し、生徒の個々に合わせた創造的・挑戦的な学びを展開する。 ○生徒主体のカリキュラムにおいて、自立した個人として授業に参加することで、自らが学んでいるという当事者意識を高め、より深く学ぼうとする意識を向上させる。 ○それぞれの教室においては、「間違える、わからない、質問する」が「当たり前」となるような雰囲気が醸成され、学びが安全安心な場であることを約束する。 ○「今はまだ、できないだけ」を教員が意識し、それぞれの学びの世界に導き、刺激し、能力を引き出すことで、生徒がクリエイティブに「何か」を見つけて、自分を変えていく力を認知する。 ○義務教育の 9 年間では、誰もが苦手と感じる分野を持つ。高校生活スタートで誰もが必要とする基礎・基本の学びを導入し、高校での学びへの移行をスムーズにする。 ○ICT を有効に活用する。タブレット等を活用することで、自分の意見を伝達が苦手な生徒にとってもハードルが低くなり、自分との対話ができることから人との対話が可能になっていく。
	「入学者の受入れに関する方針」(アドミッション・ポリシー)	(短期的目標) 【「これまで」よりも「これから」を重視し、今あるものを良いと感じられ自分と相手の大切さを感じられる人を求める】 ○水戸南高校は一人一人の可能性の開花と、自己調整力の向上を目指している。“できないのではなく、今はまだ、できていないだけ”と

別紙様式2（高）

		いう想いから、生徒が本来持っている力を呼び起こし、自分の可能性や方向性を思い描けるように導いていく。「種は内に持っている。水が注がれば花が咲く」という考えの下、生徒の発達や個性に寄り添う場であることを知ってほしい。 ○良いものを良いと思い、普通にあるものを大切に感じ、あたりまえにあるものの価値を考えられる人、今はまだ未完成でも、予測不能と言われる社会の中で、学ぶ楽しさを見つけようとする人、「自分の大切さ」と「相手の大切さ」をともに考え、自分のことも相手のことも大切に考えられる人に、本校に入学してもらいたい。 ○教員は、生徒一人一人の持つ能力と向き合って日々懸命に教育活動に取り組んでいる。生徒に安全と安心、そして安らぎを提供したいと考えている。 ○進学や就職で、さまざまな進路希望を持つ生徒が共存するのが水戸南高校の特色。水戸南高校を点数や偏差値等のモノサシで選ばずに、自分の感性と選択で本校に入学してもらいたい。		
昨年度の成果と課題		重点項目	重点目標	達成状況
・進路実現への一歩目を踏み出せない生徒がおり、卒業後もアルバイトの継続や在家庭の生徒が多い。昨年度は最後まで就職活動を継続した生徒10名が就職できた。進学は、課外授業等、個別指導で実力を養成し、14名（大学3名、短大1名を含む）が合格した。 ・基礎学力が身に付いていない生徒や様々な支援が必要な生徒が多数入学する。また、日本語の理解力が乏しい外国籍の生徒の入学も毎年見られる。しかし、学び直しや、基礎学力向上の取り組み等により、改善が図られ、成長を遂げる生徒も数多い。 ・精神的な悩みを抱え、中学校までに不登校を経験した生徒が多く入学している（令和6年度入学生の年間30日以上欠席率67%、100日以上欠席率47%）。入学後は、生徒に寄り添う指導と、生徒自身の向上心から学校生活は、例年着実に改善している現状である。また、特別な支援や配慮を必要とする生徒の入学も増加傾向にあり、個性豊かで多様性に溢れている。 ・人間関係などで課題を抱え、上手く集団に馴染めない生徒が増えている一方で、生徒会や部活動に熱心に取り組む生徒もいる。生徒会を中心にボランティアへの参加も増えている。 ・超過勤務時間の平均は、令和5年度11時間23分（令和4年度17時間04分）で微減であった。月平均45時間超過の割合が全体の2.7%であり、特定の教員への業務負担が要因と		・望ましい勤労観・職業観の育成及び主体的な進路選択と進路実現	・キャリア・カウンセリングの機会の確保に努め、キャリア教育を推進する。 ・日頃の教育活動全般をとおしたキャリア教育に努め、様々な状況に応じて適切な進路指導を行う。 ・生徒の特性や進路希望に合った資格の積極的な取得を目指す。 ・最後まで諦めず、妥協せず、挑戦する勇気を持ち、進路実現を目指すよう継続的に指導する。	B
		・基礎学力の定着と思考力・判断力・表現力の向上	・主体的に学習に取り組む習慣を身に付けさせ、基礎学力の定着を図る。 ・ICTの活用等により、生徒の関心・意欲を引き出し、学ぶ喜びやわかる楽しさを実感できる授業を行うとともに、授業の中で自分の考えや意見を表現できるよう工夫・改善を行う。 ・「主体的・対話的な深い学び」の実現に向けた授業改善に努める。 ・授業改善に係るKPI（数値目標） 「生徒による授業評価」の観点の一つである授業満足度に係る評定平均値3.0以上を目指す。	B
		・一人一人の教育的ニーズに応じた指導の充実	・一人一人に寄り添った指導によって基本的な生活習慣の確立を目指すとともに、自己肯定感・自己有用感を高める。 ・学校生活や様々な体験活動をとおして、マナーやモラルの向上とさらなるコミュニケーション能力の育成を目指す。 ・道徳教育を含む教育活動全体をとおして自他共に尊重できる姿勢を養い、いじめのない生活環境を整える。 ・スクールカウンセラーや社会人相談員、キャンパスエイド等、外部人材との連携により、生徒一人一人に応じた支援を充実させる。また、学習や生活上の困難に対する個に応じた指導の充実を図るとともに、特別な教育的支援を必要とする生徒の理解に努める。 ・ボランティアや各種イベント、コンテストなどへの積極的な参加を促す。	A
		・特別活動の充実 （キャリア・パスポート）	・萬祭・晩秋祭（文化祭）や生徒会行事、クラスマッチ、生活体験発表等の学校行事をとおして主体的に行動できる態度を養う。 ・部活動の活性化を図り、意欲的な取組と定通大会への積極的な参加を目指す。 ・キャリア・パスポートを有効に活用し、主体的に学びに向かう力を育むとともに、自己実現につなげていく。	B

別紙様式2（高）

思われる。		・教職員の資質向上（働き方改革）	・校内外の積極的な研修参加により、教職員としてのスキルアップに努める。中でも、ICT活用やオンラインによる研修等を行うことで、授業改善や業務の効率化を図っていく。 ・在校時間を適切に把握し、一人一人の工夫とチームの協働体制を構築し、業務の効率化に努める。 ・コンプライアンス遵守の気風を構築するための研修を実施する。	A	
		・情報発信による学校への理解促進	・ホームページやパンフレット、リーフレット等を通じ、学校行事等の様子を発信する。 ・中学校等を訪問または公開等を行い、本校のさらなる理解促進を図るとともに、入学者の確保に努める。	A	
評価項目	具体的目標	具体的方策		評価	次年度（学期）への主な課題
国語	基礎、基本的な学力の定着を図る。	・生徒の学習状況を把握し、必要があれば中学レベルに立ち返って学力を補う指導をする。	A	B	・基礎的基本的な学力の定着のため、生徒の学習状況を把握しつつプリントなどを活用した指導はできているが、生徒の興味・関心を高められるよう、ICT機器活用の工夫に努める。 ・習熟度別にクラス分けをするなど、実態に沿った指導を取り入れることで、思考力・判断力・表現力のさらなる向上を図る。 ・漢字検定受検者の増加を目指す。
		・プリントを活用して定着度を確認するなど、小さな目標を設定しながら、自ら学ぶ姿勢を養う。	A		
	生徒の能力や適性、興味・関心に応じた指導の工夫に努める。	・多様な生徒に対応できるように、学習形態を工夫するとともに、ICT機器の活用をとおして、興味・関心を高める。	B		
		・漢字検定を奨励し、漢字や国語に親しむ態度を育てる。	B		
	「主体的・対話的な深い学び」の実現に向けた授業改善に努める。	・自分の考えを表現できるような授業の工夫・改善を行い、他者の考えについても尊重する態度を養う。また、その活動をとおして、思考力・判断力・表現力の向上を図る。	B		
地歴	○現代世界の地域的特色と歴史の展開に関して理解させ、様々な情報を調べまとめる技能を身につけさせる。 ○地理や歴史に関わる事象を多面的・多角的に考察し、それらを説明・議論する力を養う。	・地理的事象を、国際社会の変化を踏まえて公正に思考・判断し表現する力を養う。	B	B	・必要に応じて既習事項を確認しながら、地理的歴史的な知識・技能の上積み、考察力、判断力の向上に努める。 ・ICT機器をより効果的に活用し、生徒個々の学習評価の効率化を図る。
		・ICT機器を活用して地図や統計などの諸資料を読み取り、追及した過程や結果を表現する力を育てる。	C		
		・新聞、統計、ICT機器などの資料を用いて、歴史的事実を思考する力を養う。	B		
		・副教材を資料として活用し、歴史的事象を公正に判断する力を身につける。	B		
		・時代差や地域の比較に目を向け、それらを説明し、表現する力を身につける。	C		
	○主体的・対話的な授業実践を目指し、授業改善に努める。	・本校生徒の特質を考慮し、生徒が自己有用感や自己肯定感を持てるよう、指導内容を精選するとともに、個別指導を取り入れるように努める。また、自己決定力や他者へ配慮する態度を育成するため、発問を工夫するとともに、他人の意見や考え方を尊重する態度を育てる。	B		
公民	○政治や経済のしくみを理解させ判断力を育成する。	・ICT機器を活用し、現実の問題を多角的な視点から考察する力を育てる。	B	B	・教科書の内容と時事問題を適宜結びつけ、生徒の興味関心を高め、授業への主体
		・新聞記事や統計データを読み取り、分析解釈し判断する力を養う。	B		
	○人間としての在り方・生き方を考える態度を育てる。	・先人達の人生における様々な課題を、机上での知識の習得に終わらせることのないよう自分自身の生き方に照らし合わせ、主体的・対話的に考察し深い学びになるようにする。	C		

別紙様式 2 (高)

	○主体的・対話的な授業実践を 目指し、授業改善に努める。	・本校生徒の特質を考慮し、生徒が自己有用感や自己肯定感を持てるように、指導内容を精選するとともに、個別指導を取り入れるように努める。また、自己決定力や他者へ配慮する態度を育成するため、発問を工夫するとともに、他人の意見や考え方を尊重する態度を育てる。	B		的・対話的な参加を促す。
数学	基礎的な知識、技能の向上を図り、 理解を深める。	・習熟度別にクラスを編成し、習熟の程度に応じた知識、技能を充実させる。	A	A	・課題や小テストの内容を検 討して、数学の基礎的な知 識、技能の定着を図る。 ・ICT 教材をさらに活用し、学 習意欲向上を目指す。 ・習熟度別クラス編成によ り、個に応じた指導ができ ることから基礎学力の一層 の定着を図る。
		・生徒の現状理解のため小テストなどを実施し、基礎的な知識、技能を充実させる。	A		
		・成績不振者の実態を把握し、必要に応じて個別指導を行う。	A		
	数学への興味・関心を高め新しい知 識と既存の知識との連携を図る。主 体的な学びを促すためにも、授業の 中で自分の意見や考えを発言して もらうことにより授業改善を図っ ていく。	・数学に興味関心がもてるよう授業の題材を考え実践する。	A		
		・ICT 機器等を活用して学ぶ楽しさを伝え、意欲の向上を図る。	B		
		・課外授業の充実を図り、生徒の進路希望に沿うことができるよう努める。	B		
理科	教材研究に力を入れ、生徒の興味関 心を高め、基礎学力の向上・定着を 目指すため授業改善に努める。	・学力差を考慮した教材を取り入れ、基礎の定着に努める。	A	A	・実際の動植物の演示や実 験・体験学習の充実を図り、 生徒の興味関心を高めるこ とに努める。 ・引き続き ICT を利用した教 材を活用し、生徒の実態に 合った授業を実施する。
		・ノート点検やプリント提出・小テスト等により理解度・定着度を把握する。	A		
		・自然現象の観察、実験に必要な基本的技術を身につけるために指導内容を精選する。	A		
		・ICT の積極的な活用により、理科に関する興味関心を喚起し自然愛護の精神や主体的に問題に 取り組む態度、課題を解決する能力を養う。	B		
	身の回りにある自然現象を科学的 に探究する態度を養う。	・自然現象に対する探究をとおして、課題を解決するための思考力、判断力、表現力を養う。ま た、理科に興味関心が持てるように授業を展開する。	A		
保健体育	基礎的な身体能力や知識の 向上を図る。(体育)	・活動環境の整備を心掛け、個人または集団において安全に活動できるよう意識させる。	A	B	・生涯と通じる健康を意識 し、運動量の確保に努める。 ・生徒の実態に応じた授業展 開を心掛け、運動の楽しさ を伝える。 ・ICT が活用できるような環 境を整え、積極的に取り入 れる。
		・それぞれの運動特性や興味に応じて、種目や練習方法を自ら選択させ、継続して運動す る楽しさを実感させる。	B		
		・生徒の運動技能に留意しながら、主体的に活動できるよう指示を工夫する。	B		
	協調性や協力性の育成を図るため、 授業の改善に努める。(体育)	・ペア活動やグループ活動をとおし、積極的かつ主体的に行えるような授業環境を工夫する。	B		
	健康に対する興味・関心を 高める。(保健)	・自己や他者の健康に興味・関心を持ち、生涯に通じる健康について考え、健康につなが る行動選択ができるよう促す。	B		
		・タブレット学習を積極的に取り入れ、自ら情報を得ることにより、学習の幅を広げる。	C		
芸術	芸術分野における技能と思考力の 向上を図る	・実感の伴う具体的な経験活動を授業の中心とし、自分自身への理解を深め、技能の向上に繋 げられるようにする。	B	B	・ICT 機器・タブレットを活用 した授業を展開できるよう に工夫する。 ・芸術教科の特性を踏まえ た、生徒の主体性を引き出 す授業を引き続き展開 する。
		・実感の伴う具体的な経験活動を授業の中心とし、自他の感性への理解を深め、芸術文化と豊 かに関わる資質・能力を育む。	B		
	授業の適性化を行い授業改善に繋 げる	・生徒の表現活動が効果的に行われるよう、わかりやすい説明を心掛け、段階的な構成の授業 を実施する。	A		
		・書画カメラやモニター、タブレットなどの ICT 機器を効果的に活用し、視覚的、直感的に理 解できる授業を行う。	C		
		・施設、教材・教具の充実と開発、教室のレイアウトの最適化に努め、授業効率を高める。	A		
	主体的に関わる姿勢を育む	・言語活動を多く設け、自己の思考と感性について考えを深め、物事に対して主体的に取り組 む態度を引き出す。	B		

別紙様式 2 (高)

外国語	基礎学力の定着を図るとともに、4技能の使用を意識した指導を行うよう改善に努める。 英語に対する興味・関心を高めるよう改善を図る。 ICTの学びへの活用に努める。	・英語コミュニケーションⅠの授業において、より時間をかけた丁寧な解説や補助プリントの配布等により基礎基本の理解と定着を図る。	A	A	・ペアやグループでの活動など言語活動を通しての英語力育成ができるかどうか課題である。
		・個々の生徒の特性に留意しながら4技能を用いた言語活動の場を設けた授業づくりに努める。	B		
		・ALTを活用して、英語を使う楽しさを実感させる。	A		
		・英検受検やスピーチコンテストへの参加を勧める。	C		
家庭	生活的自立に向けて、家庭に関する知識・技術が身につくような授業改善を図る	・整備されたICT機器を活用して学習活動の一層の充実を図る。	A	B	・ICTを活用した指導方法の工夫 ・観点別評価を踏まえた学習評価の改善 ・「主体的・対話的で深い学び」を実践するための授業展開の工夫
		・実験・実習・演習を中心とした体験的・課題解決的な学習を充実させることにより、思考力・判断力・表現力を向上させ、人間性を育成する。	B		
		・家庭科の各分野（衣・食・住、共生、環境、消費生活）と関連づけてSDGsについて考え、行動できる姿勢を育む。	B		
	授業が分かる喜びを実感するよう改善に努める	・専門教科における技術検定試験の指導をとおして学びに向かう力を育成し、合格率を引き上げる。	A		
		・生徒の興味・関心を高めるような教材の工夫や、ICT機器の活用等により主体的・対話的で深い学びの実現を目指す。	B		
		・製作実習では、完成までのプロセスを重視し、きめ細やかな指導により達成感を持たせる。	A		
商業	商業の各分野について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けられるよう言語活動や発表の機会を設けて授業改善を図る	・施設、設備の効果的な活用を図り、実験実習における安全、衛生事故防止等の徹底を図る。	A	B	・ビジネスの場面に即した商業の知識と技術の理解・定着を図るとともに、グループ活動等を積極的に取り入れてコミュニケーション能力の向上に努める。
		・基礎的・基本的な知識と技術の確実な定着を図る。そのために、ICT機器も効果的に取り入れる。	B		
		・生徒の学習の理解度を把握し、必要に応じ個別にフォローする。	A		
		・商業の各分野についての知識と技術を理解するとともに、関連する技術を身に付けられるよう言語活動や発表の機会を設けて授業改善を図る。	B		
情報	情報と情報技術を適切に活用するとともに、情報社会に主体的に参画する態度を養うための授業改善を図る	・職業人に求められる倫理観を踏まえ合理的かつ創造的に解決する力を養う。	B	C	・授業の中で積極的にグループ学習を取り入れて、さらに情報活用の技術を身につけることを目指す。
		・基礎的・基本的な知識・技術・表現力の確実な定着を図るための授業改善を図る。	C		
		・情報と情報活用技術を活用して問題を発見・解決する方法を身に付けさせる。	C		
教務	行事運営の工夫に努める	・情報と情報技術の適切かつ効果的な活用と望ましい情報社会の構築について考察する。	C	A	・支援システムの運用と成績処理の引継ぎを行う。 ・履修指導や、その他の学習活動を円滑に行えるよう支援する。 ・三課程にわたる学校行事等の運営を円滑に行うよう、連絡を密に取りながら行う。
		・各部との連絡調整のもと、行事・日程等の改善を図り、「働き方改革」に抵触することがないよう効率的な運営を図る。	A		
		・役割分担を細分化し、業務を分担して進める。	A		
	教育課程の工夫に努める	・次の担い手を各業務について育てる。	B		
		・履修指導の充実と、生徒にわかりやすいシラバスの工夫改善を図る。	A		
	教育活動の円滑な推進を図る	・学校外の学修による単位認定等、単位制高校の特色を生かした教育活動の工夫改善を進める。	A		
		・校内諸規程等を学校の現状に即した内容に整備する。	B		
		・教務部会を定期的に行い、情報共有を行う。	A		
		・支援システムを活用して成績処理を円滑に行う。	A		

別紙様式 2 (高)

生徒指導	基本的生活習慣の確立に努める	・継続的な登校指導を通して、挨拶の励行、遅刻防止を呼びかける。	A	A	・SNS 上での誹謗中傷など、表面化しない問題行動や校則で禁止された行為を平然とする生徒が一部存在する。家庭環境など、さまざまな要因・背景があるので、真摯に話を聞き、自制を促していけるような指導体制の教員間共有が課題である。 ・日本語が理解できない保護者や生徒に対する特別指導等の方策検討が課題である。 ・非常勤教諭など、同僚性が築きづらいスタッフとの生徒情報の共有方策が課題である。
		・LHR や学年集会等において、授業態度、言葉づかい、礼儀作法等を指導する。	B		
	教員間の連携を強化し、チーム学校として、規律ある、安全安心な学校生活の推進に努める	・登校指導や校内巡回指導等を通して、生徒観察や生徒への声かけを密に行い、心身や生活状況等に異変がないか確認する。	A		
		・全職員輪番で校舎内外を巡回し、生徒の校内生活状況を把握し、問題行動の未然防止に努める。	B		
		・集会や講演会等を通して、交通安全、薬物乱用防止、情報機器の安全・適切な使用や利用マナーの向上等について指導する。	A		
		・各学年主任、生徒指導相談員、生徒指導主事による情報交換会を月 1 回以上開催する。	A		
	本校の「いじめ防止基本方針」に基づき、いじめの防止に努め、実態把握およびいじめに対する措置を適切に行う。	・教育相談係との情報交換を密にし、個々に対してきめ細かな支援をする。	A		
		・授業や学校行事等を通して生徒の自己有用感等を高め、互いに相手を思いやる心を涵養することによって、いじめ等の未然防止に努める。	B		
		・生徒や保護者から相談されやすい関係や環境を構築し、いじめの早期発見に努める。	A		
		・いじめ発生の際には、法に則して対応し、被害者の心のケアや加害者への指導を適切に行う。	A		
		・保護者と密接に連絡を取るとともに、必要に応じて関係機関と連携して対応する。	B		
		・情報モラルやいじめについての事例研究や校内研修などの教職員研修を適切に行う。	B		
進路指導	望ましい勤労観・職業観の育成と進路意識の高揚に努める	・進路ガイダンス、ハローワーク・ジョブカフェ見学を実施し、生徒各自の進路に対する意識の確立と高揚を図る。	A	A	・就職活動のイメージを持つことが難しい生徒に対して引き続き外部機関と連携したきめ細かい指導を行う。 ・進路ガイダンス・ジョブカフェやハローワーク見学・面接指導などで、1 年次から進路意識を高める。
		・面談・履修指導・適性検査等を通して生徒のキャリアデザイン設計を援助する。	A		
		・「進路を考える資料」を活用し、生徒の進路研究及び教師の進路指導に役立てる。	B		
	進路指導の充実を図る	・専門学校、短期大学、大学の進学希望者に対し、進学先に応じたきめ細かな指導を行う。	B		
	就職指導の充実を図る	・就職希望者に対し、学校・ネット・ハローワークの求人票を紹介し個別指導の徹底を図る。	A		
学習指導	学習意欲の向上と確かな学力の定着	・生徒の興味関心を高めるよう ICT の活用、授業方法や教材を工夫し、基礎学力の定着を図る。生徒の進路希望に応じた課外を継続的に実施し、個々に応じた学習指導をする。	B	A	・ICT機器利用の促進 ・基礎・基本を重視し、わかる授業、興味・関心を高められる授業改善 ・生徒たちの希望進路に合わせた課外講座の開講、課外受講者の増加 ・視聴覚室の使用方法的の周知と活用促進 ・図書館整備について夜間制通信制課程との連携 ・図書館利用の促進
	視聴覚教育の充実	・視聴覚室及び視聴覚教材の整備と機器の更新を進める。視聴覚室と放送機器の使用方法的の周知を図り、その活用を促す。	B		
	図書館の充実と利用の促進	・「読書センター」及び「学習・情報センター」としての機能を果たすよう図書館内の環境整備、利用方法的の工夫に努める。	A		
	教科書関係事務の円滑かつ正確な執行	・対象者へのわかりやすい提示の工夫をする。確認を徹底し、書類不備の減少を目指す。	A		

別紙様式 2 (高)

特別活動	生徒会活動の一層の活性化に努める。	・本部役員立案により、個性と多様性を大切にする自由さを念頭においた魅力ある学校行事を計画・実施する。	A	B	・環境美化の対策の検討。 ・キャリアパスポートの活用における、進路指導部との連携、及び活用できる取組の検討。 ・部活動活性化の方法の検討。
		・ホームページ等を活用して、行事ごとに学校生活の様子を積極的に発信する。	B		
	生徒の自主性を育む行事の運営に努める。	・本部役員が主体となり、一般生徒の活動を支援し、自主的な活動を促す。	B		
		・保健厚生部と連携し、生徒が主体となって学校全体として環境美化を目指す。	C		
		・全校生徒へ向けて、ボランティア活動への参加を促す。	A		
	キャリア・パスポートの活用について周知する。	・進路指導部と連携し、自己のキャリア形成へ繋がる取り組みの検討をするとともに、主体的に学びに向かう力を育む。	C		
部活動の活性化を図る。	・部活動の設置数の見直しを行い、生徒が主体的に活動できる場の工夫をする。	C			
保健	生徒の心身の健康維持増進を図る	・健康診断の受診率向上を目指す。また、検診を通して健康に対する知識の深化を図る。	A	A	・生徒が日常の生活習慣を見直し健康への意識を高める機会を増やすことで行動の変容を目指す。 ・人間関係がより望ましいものになるよう他者の多様性を理解する機会を増やす。 ・他課程及び事務と連携し、施設設備等の管理・美化の改善を目指す。
		・睡眠や食事などの生活習慣、適切なスマートフォンの利用への意識を高め、心身の健康維持増進を呼びかける。	A		
		・生徒の健康状態の把握、早期の問題解決に当たるとともに、感染症予防に努める。	A		
	生徒の生命と安全に対する知識の獲得と技能の向上を図る	・地震、火災避難訓練を実施して安全に対する知識の獲得と技能の向上に努める。	A		
		・がん教育講話、救命救急法講習等とおして、命を守るの意識の向上を図る。	A		
		・性教育講話、ホームルーム等とおして、望ましい人間関係の構築を図る。	A		
	校内の環境美化を推進するとともに環境問題に対する意識の向上を促す	・ホームルーム等とおした呼びかけを進め、一人一人の清掃作業や整備委員会の活動が校内の環境や美化の改善に繋がることを意識づける。	B		
		・日頃の呼びかけにより、資源ゴミの分別がより進み、環境問題への意識が向上するよう努める。	B		
渉外	PTA 活動への会員の関心を高め、PTA 行事への積極的な参加を促す	・役員、委員と教員間の連携を深め、会員が参加しやすい PTA 活動の企画・運営を行い、各委員会活動の充実を図る。	B	B	・PTA 活動を工夫することで、より多くの会員の参加を促す。
		・ホームページや広報誌を活用し、PTA 活動についての理解や関心を高め、協力を促す。	B		
教育相談	適応支援室の充実に努める	・適応支援室の存在が学校生活適応のためのステップとなることを目指す。 ・社会人相談員との連絡を密にし、教職員と連携を深めることにより指導の充実を図る。	A	A	・スクールカウンセラーとの情報共有を密に行えるようコンサルテーション枠を有効活用する。 ・特別支援教育・通級指導に関する理解をさらに深めると共に、より生徒の実態に即した実践に繋げる。
	スクールカウンセラーとの連携に努める	・スクールカウンセラー来校時、カウンセリング前後のコンサルテーション枠の時間にカウンセラーと担任や関係職員等の情報共有を毎回行うことで、生徒支援の充実を図る。 ・生徒の実態を多面的かつ客観性をもって把握し、学校生活における指導・支援に役立てるために生徒対象の学級診断アセスメントを実施する。	B		
特別支援教育	特別支援教育の理解と充実に努める	・校内研修や外部での研修を通じて、特別支援教育の視点に立った教育活動への理解を深め、実践に生かす。	A	A	
		・特別支援教育・通級指導委員会を毎月 1 回定期的に開催し、合理的配慮や通級による指導に関する情報提供や理解促進を図る。	A		

別紙様式 2 (高)

第1年次	高校生としての基本的生活習慣の確立を目指す	・オリエンテーションを実施し、学校のしくみを理解させ、学校生活を支援する。	A	B	・生徒に対する個別面談や言葉かけを生徒の状況に応じて適宜行い、家庭と連携した多様な生徒への対応に努めたい。 ・授業での複数要員配置の学習支援やLHRの有効的な活用(常識テストの活用など)を通して、基礎学力の定着に努めたい。
		・学校行事、朝の立哨、清掃の時間等、機会あるごとに生徒に細やかに声をかけ、生徒に寄り添った指導を行う。	B		
	多様な問題を抱えた生徒に適切に対応する	・養護教諭、教育相談係、スクールカウンセラー等と協力して情報の共有を図り、連携して支援する。	A		
		・個別面談を適時実施し、生徒の状況把握・理解に努めて適切な生徒対応を行う。	A		
		・家庭との連絡を密にし、学校生活の様子などを知らせ、相互理解に努める。	B		
	基礎学力の向上に努める	・複数教員配置の学習支援をととして、授業にきちんと取り組む姿勢を育む。	B		
		・課外授業や常識テストを通じて、生徒の基礎学力の定着・向上に努める。	B		
第2年次	基本的生活習慣の確立を目指すとともに、自己肯定感を高める。	・学校生活の様々な活動をととして、マナーやモラル、自己管理能力の向上を目指す。	B	B	・卒業に向けて、さらに生活指導を行い、自己管理能力の向上に努める。 ・様々な活動をととして、授業や進路に対する意識を高め、進路に応じた学力の向上を目指し、キャリア教育に繋げる。
		・教員間の連携を密にすることで生徒の状況把握に努め、きめ細やかな指導を行う。	A		
		・生徒への声かけの機会を増やし、一人一人に寄り添った指導を行う。	A		
	基礎学力の定着を目指す。	・授業への取り組みについて、授業やホームルームをととして声かけを行い、意識の向上を図る。	B	A	・望ましい勤労観・職業観を培い、個別指導に努め、自己理解を促し、進路実現を目指す。
		・模試や課外への参加を促し、一般常識テストの継続や小テストの実施をととして、進路意識を高めつつ、基礎学力の定着を目指す。	A		
	望ましい勤労観・職業観を養い、個に応じた進路指導に努める。	・進路ガイダンスやホームルームなど、様々な教育活動をととしたキャリア教育に努める。	A	B	
		・生徒の特性や進路希望を把握し、個に応じた進路指導に努める。	B		
第3年次	できるだけ多くの生徒を卒業させる	・出欠や単位修得状況に関して、自己管理能力の向上を目指す。また、家庭との連携を密にすることで、単位の修得へと繋げる。	B	B	・出欠状況や単位修得状況の把握に努めたが、欠時数を超過する生徒が出てしまった。自己管理能力の育成に課題が残る。 ・進路実現へ向けた行動が起こせずにいる生徒が多かった。アプローチの仕方など改善の必要がある。 ・正しい職業観や勤労観の育成の機会をさらに増やす。
		・教員間の連携を密にすることで生徒の状況把握に努め、きめ細やかな指導を行う。	A		
		・生徒への声掛けの機会を増やし、生徒に寄り添った指導を行う。	A		
	個々に応じた進路希望の実現を図る	・オープンキャンパスや進路相談会等への積極的参加を促す。	B		
		・個に応じた指導を継続的に行い、正しい職業観や勤労観を養う。	B		
	自立・自律的な態度を養う。	・卒業後を見据え、ホームルームや学校行事をととして良識ある態度を養う。	C		

※評価基準： A：十分達成できている B：達成できている C：概ね達成できている D：不十分である E：できていない